

## (情報公開文書)

杏林大学医学部病理学教室では、杏林大学医学部倫理委員会の承認を受け、以下の研究を行っています。

### 1. 研究課題：

組織学形態学および分子遺伝学解析による肝胆膵領域腫瘍の層別化の探索：病理組織検体を用いた検討

### 2. 研究の目的：

肝臓や胆管、膵臓にできる腫瘍（特にがん）は、診断技術や治療法の発達した現在でも難治性であることが多く、新たな治療の標的、方法を見出す意味でも、腫瘍がどのようなメカニズムで大きくなり、全身に転移していくのかを詳しく解明していくことが望まれています。そのために、様々な手法を用いて個々の腫瘍の特徴を見極め、どのように腫瘍が分類できるのかを考える必要があります。

本研究では、杏林大学医学部附属病院で外科的に切除され、病院病理部に保管されている肝臓や胆管、膵臓の腫瘍の組織を使って、遺伝子検査を含む様々な検査や解析を行い、新たな腫瘍の分類方法、腫瘍が進行するメカニズムを解明することを目的としています。

### 3. 研究の方法：

杏林大学医学部附属病院で外科的な切除をされた肝臓や胆管、膵臓の腫瘍を対象に、病理組織標本（顕微鏡観察の目的で作成された標本）を再評価して病理データを作成します。そして、臨床データ（年齢、性別、既往歴、治療法、転帰、併存・合併疾患の有無）を参照にしながら、病理のデータと臨床データを統合したデータ（臨床病理データ）を作成します。その上で、代表的だと思われる症例について様々な検査や解析を行います。具体的には、病院病理部に保管されている腫瘍組織のブロックを用いて、免疫組織学的染色や ISH 法などと呼ばれる手法により、腫瘍における特定のたんぱく質や RNA の状態を検討します。また、病理組織検体から DNA や RNA を抽出し、腫瘍の遺伝子の発現状態や遺伝子異常を検討します。これの検討結果と臨床病理データを総合的に検討することで、新たな腫瘍の分類方法や腫瘍が進行するメカニズムを探索します。なお、結果の精度管理のため、解析データの一部は完全に匿名化した状態で専門家に再解析を依頼することがあります。

### 4. 研究期間

倫理委員会承認後～西暦 2027 年 3 月 31 日

### 5. 対象者及び研究に使用する試料・情報

対象：2008年から2023年7月の期間に杏林大学医学部附属病院で外科的切除（手術）をされた肝臓や胆管、膵臓の腫瘍症例。

試料：診断目的に摘出された病変の病理組織検体（当院に保管の診断後の残余検体）

情報：診療録中の年齢、性別、既往歴、治療法、転帰、併存・合併疾患の有無

#### 6. プライバシーの保護

本研究では研究対象者の個人情報を匿名化したうえで検討を行います。学術集会や学術雑誌において研究成果が発表される際にも、対象者が特定されることはありません。

#### 7. 研究対象者となることをご了解頂けない場合

本研究の対象者となることをご了解頂けない場合には下記にご連絡下さい。研究期間中には、いつでも対象者となることを拒否できます。

#### 8. 本研究についての問い合わせ先

杏林大学医学部消化器外科・一般外科学教室 阪本 良弘

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

TEL：0422 - 47 - 5511（内線 2941）

FAX：0422 - 40 - 7093

杏林大学医学部病理学教室 林 玲匡

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

TEL：0422 - 47 - 5511（内線 3420）

FAX：0422 - 40 - 7093